



The Y's MEN's CLUB of

もりおか

<VOL209.2025.5>

もりおかクラブ事務所：〒020-0021 盛岡市中央通3-19-22 019-658-8773 盛岡YMCA内
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

5月の聖句 ヤコブの手紙 4章1節



「あなたがたの中の戦いや争いは、どこから起こるのですか。
あなたがたの体の中でうごめく欲望から起こるのではありませんか。」

「主題」

国際会長	シャナヴィスカーン(インド)
アジア太平洋地域会長	利根川 恵子
東日本区理事	山田 公平(宇都宮)
北東部長	大久保知宏(宇都宮)
もりおか クラブ会長	長岡 正彦

「より良いコミュニケーション」
「太陽の輝きと笑顔」
「ワイズの方向性を見極める」
「クラブのミッションを育てよう」
「リーダーの志を、全力で支えよう」

会長	長岡 正彦
副会長	山口 貴伸
書記	濱塚 有史
会計	大関 靖二
担当主事	中村 渉(ちゃん)
メネット	井上 優子

2025年6月定例会

日時、場所 6月の定例会はお休みにします。

今年度の年度末です。健やかに過ごしてください

会長巻頭挨拶



長岡会長

みなさまこんにちは、風、薫る5月の割には雨が多く、肌寒い陽気が続いています。いかがお過ごしでしょうか？ くれぐれも風邪や流行性のウィルス等には気をつけて生活しましょう。

季節はまちがいなく進んでいます。イチゴの花は満開から、花びらを落とし、小さな実が下

を向いて来る収穫に向けて成長しています。栗の花は開花の準備を始めました。あやめは咲きだしもうじき満開になります。

季節は人間の暮らしには関係なく進んで行きますが、「戦争」という人間の一番愚かしい行為は、終わりそうもありません。ウクライナとロシア、イスラエルとハマス、さらにインドとパキスタン。どれだけ戦い相手を殺せば気が済むのでしょうか。今月は反戦をテーマにブリテンを書いて行こうと思います。聖句にはヤコブの言葉を掲載しました。体の中には欲望があるから争いが起きるといっています。生き物には欲望があります。食欲、性欲、睡眠欲、生きていくために必要な欲望ですが、他人から奪い取る物では絶対ではないはず。国を守るためには、他国の人間を

殺してもいいと誰が教えているのでしょうか？ニュースの取材でイスラエルの人が、ガザを見たわせる丘から見える爆発と破壊音が心をいやすと言っていました。フェイクニュースであることをねがいます。戦争の相手の人間は殺してもいいと思っていたらそれは恐ろしいことです。ウクライナの草原にはもうじきヒマワリが咲き乱れるでしょう、そのころまでに停戦が決まればいいのですが。

5月定例会の報告

2025年5月17日(土)、居酒屋ミライザカにて開催、三田、長岡、加藤、濱塚、井上、井上優子、梶原、山口、中村、以上9名。(敬称略) ゲスト、高瀬メン(岩国みなみクラブ)、リーダー6名、全16名の出席でした。今月は高瀬メンが来盛して、例会に出席してくれましたので、懇親会を行いました。また梶原メンの歓迎会を行っていませんでしたので、歓迎会も兼ねて懇親会を行いました。井上メンは体調が少し回復してきたので、メネットと一緒に参加してくれました。久しぶりでしたので、感動の再開をいたしました。「迷惑をかけてすみません。」などと話しておりましたが、迷惑などという事はありません。元気な姿を見せてく

れただけで、ただ嬉しかったです。今後も体調に気を付けてお暮しください。

ピンが、この日、リーダー会の新会長に就任の挨拶をいただきました。ピン、今年一年頑張つて。リーダー会を応援します。ますます発展していくことを期待しています。

カシミール紛争は核戦争の懸念

カシミール紛争とは、パキスタン北部とインド北西部にまたがるカシミール地方の領有権をめぐる、インド、パキスタン、中国の3カ国が領有権を主張している地域紛争です。その中でも、インドとパキスタン間での争いは激しく、現在でも軍事的緊張が続いています。過去1947年、1965年、1971年に3度の戦争、いわゆる「印パ戦争」が起こっています。直近でも、2019年2月にパキスタン軍がカシミール地方に空爆し、インド軍の戦闘機2機を撃墜、パイロットを拘束しています。国際社会もこの状況を憂慮しており、インド、パキスタン両国に緊張緩和を促しています。しかし、両国の対立は根深く歩み寄りは見られません。歴史を辿れば、カシミール地方は、イギリスの領土であった時代、カシミール地方は藩王国とされ、その国王はヒンドゥー教を信仰していましたが、藩王国の住民の多数はイスラム教を信仰していました。そのような中、1900年代半ばに藩王国はイギリスから独立します。もともと藩王国の国王はインドにもパキスタンにも属さないかたちでの独立を目指していました。しかし、それが気に入らないパキスタンが藩王国に攻め入ります。

藩王国の国王はヒンドゥー教徒ですから、国民の80%以上がヒンドゥー教徒のインドに助けを乞います。その国王の助けに応じてインドが参戦。そして1947年に第一次印パ戦争が勃発します。藩王国の国王はヒンドゥー教徒、住民の多数はイスラム教徒です。そこにインドとパキスタンの宗教問題も絡んでくるわけですから收拾がつきません。結果的にカシミール地方は、ヒンドゥー教の信仰者とイスラム教の信仰者の対立を示す縮図として、現在まで対立が続きます。

インドとパキスタンがイギリスから独立したのは1947年の8月です。それまでの間に独立運動がなかったかという、そうではありません。1857年の東インド会社のインド人の傭兵が起こした反乱「インド大反乱」以降、インド国内では反英闘争が幾度となく起こっています。なぜ1947年に限っては独立することができたのでしょうか。答えは「第二次世界大戦」にあります。1938年から1945年にかけて起こった第二次世界大戦の結果、イギリスは勝利したものの大きく疲弊してしまいます。その影響でイギリスは、従来の超大国の地位から転落してし、また世界的に脱植民地化の流れが強まり、そのような背景をふまえて、イギリスは当時植民地であったイギリス領インド帝国の独立を認めました。

イギリスから独立を果たしたインドですが、独立当時のインドでは宗教的な対立が激化していました。具体的には、多数派のヒンドゥー教徒と少数派であるイスラム教徒の対立です。なかでもジンナーを指導者とする全インド・ムスリム連盟の勢いは著しく、ジンナーが唱えたヒンドゥー教徒とイスラム教徒の分離を強硬に主張する「二民族論」は社会に大きな影響を与えます。

親睦会はいいいですね、飲むほどに、酔うほどに、話が弾み、メンバーの親睦が深まり、リーダー達からは、若いエネルギーを全身から吸収出来てどんどん若返ります。続いてカラオケなども楽しみにしていましたが、もう飲みすぎちまって、次には行けそうもありません。でも楽しかったです。

一方でインド独立の父として有名なガンディーらは、こうした分離の動きに強く反対して統一インドの実現を訴えていました。その他の党派においても政教分離の立場から、ヒンドゥー教とイスラム教の宗教による分離には慎重でした。ただ、ジンナーが強固に主張するヒンドゥー教とイスラム教の分離の勢いはとまりません。この時、宗主国イギリスは、当初ヒンドゥー教徒の多い地域にヒンドゥスタンという国を建国し、イスラム教徒の多い地域にパキスタン、そして藩王国を残し、この三国を合わせて「インド連邦」を構成する独立案を描いていました。ただ、この案の合意は得られません。そこでイギリスはインドを三国で一体とする計画を諦め、イギリス領インド帝国をインドとパキスタンに分割することによって独立することを宣言します。これにより、インドとパキスタンの分立による建国が成立します。このインドとパキスタンの分立によるインド帝国の独立は、ヒンドゥー教とイスラム教の宗教対立をより加速させることになります。

もともと藩王国の領土であったカシミール地方ですが、パキスタンの侵攻に遭い、インドとパキスタンの戦地と化します。その結果、3度にわたる印パ戦争が起こっています。気付けばもともとの領主「藩王国」は形を消し、カシミール地方はインドとパキスタンの激戦地となります。この争いは現在でも続いており、世界的な国際問題の一つとなっています。またインドにおいては、1959年から1962年にかけてカシミール地方を争い中国とも戦争を起こしています。いわゆる中印戦争です。

中国は1950年にチベットに対する主権を認めさせるためチベットチベットを編入します。その後、1956年には中国政府のチベット統治に対し反対するチベット動乱が起き、1959年にはチベットの長、ダライ・ラマ14世がインドに亡命します。

ここで中国とインドの関係は一気に悪化。両国は国境の解釈をめぐる対立するようになり、そして1959年に中印戦争が勃発。戦地はカシミールとその東部地域で中国とインドによる激しい戦闘が繰り広げられます。戦争の結果は中国の勝利に終わりますが、実は中印戦争のさなかにパキスタンがカシミール地方のインド支配地域に侵攻して、第二次印パ戦争が起こっています。この中印戦争をきっかけに、中国がカシミール地方に介入してくるようになります。世界を見渡せば、紛争が起こっている場所は各地にあります。紛争において、このカシミール地方が世界的に注目され国際問題となっているのは、関係国のインド、パキスタン、中国が核を保有している国だからです。特にインド、パキスタンは核兵器の縮小を目的にした条約「核拡散防止条約」に加入していません。宗教間の対立が深刻化し、国内の世論が傾けば、再び**インドとパキスタンの戦争が起こる可能性があります。その際に、核拡散防止条約に加盟しないインドとパキスタンが核を使用しない絶対的な理由があるとは言いきれません。**インドとパキスタンはお互いに歩み寄ることはできない

のでしょうか。実はパキстанはインドに歩み寄る姿勢をみせています。ただ、インド側が国内の世論を意識してパキстанの姿

を相手にしていない状況があります。宗教間の対立に政治的要因も絡むと、解決に向けて困難さがさらに増します。

「フイテン盛岡DAON」

もりおかクラブの状況報告

5月の出席率	7/17	47 %	ゲスト 7 名	メネット	1 名		
メーキャップ	0 名			5 月切手	10 g	累計	190 g
5 月のにこにこ	0 円	累計	0 円	富士宮焼きそば	0 円	累計	0 円
5 月 石鹸	0 円	累計	0 円	りんご	0 円	累計	0 円
5 月 献金	0 円			ファンド合計	円		

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

5月のハッピーバースディ 5/27 長岡 五咲子メネットお誕生日おめでとうご

パレスチナ情勢 なぜイスラエルと衝突、ハマスとは
ハマスが設立されたのは1987年12月です。それまでガザ地区を中心として、社会福祉活動を行っていた団体が、第1次インティファダ(イスラエルに対するパレスチナ住民の大規模な蜂起)の発生を受けて、実力行使部隊を伴って形成されました。これがハマスです。政治運動としての姿を現したのが1987年12月というわけです。その後、ハマスは1990年代半ばから2000年代初め頃にかけて、パレスチナ政治の中で、PLO＝パレスチナ解放機構が主導する政治方針、イスラエルと共存した形でのパレスチナ国家の樹立といったことを批判して、そして、自らの直接行動で乗り出していきます。その中で編み出されていくのが「自爆攻撃」です。1990年代に最初に行われ、その後、2000年代、ハマスは多くの自爆攻撃を実行しました。これによって、ハマスはテロ集団、テロ組織であるということでイスラエルによって強く非難をされてきました。一方で、2000年代の中頃から、ハマスの中で、政治部門の主導が強くなり、選挙を通して自分たちの支持を獲得するという動きがでてきました。2006年1月、パレスチナの自治政府で2回目の選挙が行われ、この選挙に参加して、ハマスの政党が過半数の議席を取りました。この段階で、ハマスには「3つの顔」ができたと言っていいと思います。

①政党としての姿 ②福祉団体としての元々の姿 ③実力行使部隊の軍事部門の姿です。全ての面がハマスを構成しているのですが、どの面から見るかによって、ハマスのイメージというのは大きく変わってきます。ハマスは2006年の選挙で勝利しましたが、このあとイスラエルだけではなく国際社会から「ハマスが参加するパレスチナ自治政府に対しては承認することができない」という声上がり、これは、アメリカ、EU、国連、ロシアが形成する中東和平カルテットと呼ばれたグループからも発せられました。孤立したハマスはガザ地区で実効支配を始めました。これが2007年6月のことです。

これ以降、イスラエルは、ガザ地区はハマスが管理、実効支配をしている地域であるとして、ガザ地区全体を封鎖下に置く政策を取ってきました。この封鎖が15年間続いていて、いまのガザ

地区の環境につながっています。

ハマスは住民からの支持を得ています。2006年のパレスチナの選挙では当時、132議席のうち半分を比例選挙、比例区で争い、もう半分は大選挙区で争いました。比例区ではハマスとファタハの獲得議席は拮抗しました。この2つに対して人々が向ける支持というのは、そこまで大差が開いていなかったのです。一方で、議席の獲得で大差が開いてしまったのは、大選挙区でした。この時、ハマスは候補者を絞って、戦略的に候補者を立て、組織としてよく調整して選挙に臨みました。一方でファタハは、ベテラン指導部と若手のメンバーたちの対立で、候補者の乱立という事態を招き、結果としてファタハに対する支持票が割れ、ハマスが大選挙区で圧勝したのです。

ハマスの構成人員の軍事部門に関していえば、1・5万人から2万人ほどがいます。基本的には全員パレスチナ人と考えていいと思います。組織としては「シューラー会議」という、諮問の場があります。そこで政治局のメンバーが選出され、組織としての意思決定をしています。最高指導者のような、絶対的な指導者がいるというタイプの組織ではありません。そのなかでも政治局局長のイスマイル・ハニーヤ氏が国際的には特に有名だと思います。

2007年6月、ハマスがガザ地区をファタハから奪取して掌握して、ハマスはガザ地区内部で政府として振る舞い始めました。それは、国際的またはイスラエルなどが認めないものですが、実際に市民サービスなども含めて、ハマスが運営する政府が担っているという状態になっています。

具体的には市役所での窓口業務など、ハマスの公務員がいて、日常的に目にします。場合によっては、そうした人が窓口を担当しているということも当然あります。ハマスといっても、日常生活の中でその姿を目にする存在です。

ハマスの元になった団体というのはガザ地区の「シャーティ難民キャンプ」というビーチに面した難民キャンプのモスクで活動を開始した福祉団体です。当初行っていた活動は、若者に対するスポーツ教育のような場を提供すること、そして幼稚園の運営

です。これは一般的な市民団体、または社会福祉団体が行っている活動に類するものであるといえます。

イスラエルの完全占領下にあった、ガザ地区にイスラエルは市民サービスというものを提供しておらず、このため、基本的なサービスを、パレスチナ社会は自分たちで作り出してきたのです。そうした活動の中で、日本でいうと NGO や NPO と呼ばれるようなタイプの団体がいくつも活動しています。その中の1つがハマスに発展していく団体だったのです。

ガザ地区は世界的にも有数の貧困地帯です。地域が単に貧しいというだけではなく、15年近くにわたって続いてきたイスラエルによる経済封鎖の影響が続きました。国連の2012年にガザ地区に関するレポートでは、「ガザは2020年に人は住めるのだろうか。」結論としては、人が住むにはふさわしくない土地になるだろうというものでした。

ガザ地区の大きな問題は飲料水の確保と食料の安全です。ガザ地区に対して提供される電力はガザ全体の電力を賄うほどの量にはなっていません。その中で、汚水を処理するための浄化槽に回っていません。そうすると、生活用水はどこに行くのでしょうか。住宅地の少し離れた場所に大きなため池を作って汚水をためる、または海に直接流してきました。

また、ガザ地区における貧困状態、または失業状態というのは非常に深刻です。2022年の段階ですが、ガザ地区の失業率は47パーセント、若者だけに限れば64パーセントです。また、貧困ライン以下で生活をする人口はガザ地区住民の65パーセントです、ガザの住民には、かなりの多くのパレスチナ難民、難民家庭が含まれるのですが、この難民家庭に絞って言えば、ガ

ザでの貧困率は80パーセント以上です。非常に貧しい、ガザ地区の住民のうち人道支援に頼っている人の割合は、住民の80パーセントです。食料支援、医療支援などです。

ガザ住民というのは全員がハマス支持者ではないのです。ガザの人々の中にもハマスの構成員もいるけれども、ハマスに対して非常に批判的な人物もいますし、場合によってはハマスによって拘束をされる、捕らえられた方もいます。ガザ地区には多くの民間人、住民が暮らしていて、その数は200万人を超えています。そうした人々の命がいま危機にさらされているのです。

これは決してガザだけに当てはめられることではないです。イスラエル領内で犠牲になった人は1300人とも言われています。前代未聞の人命が奪われたわけですが、これもやはり許し難い行為であるということです。国際社会の1つの声として、日本からも、私たちは特に民間人の命、生活が脅かされる事態は認められないという姿勢は示しておく必要があります。

今後の予測は難しいのですが、過去の事例を見る限りイスラエル側の軍事作戦は完了する可能性が高いです。その後、散発的な戦闘が続き、停戦に至るという形が考えられます。ただ、イスラエルとパレスチナの衝突のなかで、命の危険・尊厳に対する脅威を抱えているのはそこに住んでいる人々です。それはイスラエル人かパレスチナ人かということにかかわらず、そこに暮らしている人達の命が、そして生活が脅かされています。このことをやはり私たちは真剣に考えなければなりません。

それに対して、日本社会、国際社会としてどういった対応をするべきなのか。どういったアプローチができるのか。これを模索する努力を忘れてはならないと思います

を落とす戦争はいますぐやめろ。

戦後1950年代から、日本ではフォークシンガーによる反戦歌が歌われてきました。イムジン河は代表曲ですが、当時放送禁止になりました。北朝鮮の日本組織からの圧力でした。結局、反戦歌は、直接的な表現をすることをやめ、間接的な表現で反戦を歌うようになってしまいましたが、今こそ、反戦歌を歌う時です。

美空ひばりが歌った「1本の鉛筆」の歌詞です。

あなたに 聞いてもらいたい あなたに 読んでもらいたい
あなたに 歌ってもらいたい あなたに 信じてもらいたい
一本の鉛筆が あれば 私はあなたへの愛を書く
一本の鉛筆が あれば 戦争はいやだと 私は書く
あなたに 愛をおくりたい あなたに 夢をおくりたい
あなたに 春をおくりたい あなたに 世界をおくりたい
一枚のザラ紙が あれば 私は子供が欲しいと書く
一枚のザラ紙が あれば あなたをかえしてと 私は書く
一本の鉛筆が あれば 八月六日の朝と書く
一本の鉛筆が あれば 人間のいのちと私は書く

絶対戦争は繰り返さないで欲しい。戦争を知らない子供達も70歳を越えました。「ね！」という楽曲を YMCA ギター部で練習しようとしています。平和な世界がずっと続いていけばいいですね。

おじいちゃんになっても、おばあちゃんになっても、ずっと。ずっと一緒にあったかく、付き合っていたいね、ね、ね。

戦争はやめろ

イスラエルとハマス、インドとパキスタン、ロシアとウクライナ、戦争は、宗教とは関係ないことがわかりました。少しは宗教が絡んでいる要素はありますが、本質はイデオロギーの違い、近隣関係のトラブルですね。全く下らない事が原因で戦争が起きています。「ウクライナよ、NATTO に加盟するな、ロシアの安全が脅かされる。」「ハマスよ、イスラエルを攻撃するな。もし攻撃したら10倍返した。」「言いがかりをつけるな、そっちでトラブルの間に行っちゃえ」、どれも子供の痴話げんかのような原因です。手に負えないのは、国と国の喧嘩で、素手で殴りあうのではなく、兵器を使用して、攻撃しますから、人を簡単に殺してしまう事です。戦争犯罪という言葉がありますが、戦地で人権違反を行うと国際裁判に掛けられるという事です、だれが犯罪人を逮捕して訴追できるでしょう。停戦協定が成立すれば、互いの戦争犯罪は訴追しないことになってしまいます。

戦争は今すぐやめろ、ジョンレノンのイマジンに歌われています。「平和な世界を想像してごらん」。子供を含む一般市民が命

編集後記

少し、後悔しています。こんなブリテンを誰が読むだろうか。ブリテンはクラブの出来事や、楽しさを伝える機関誌であるべきです。わかっています。平和な日本に暮らしていると、他人事のように感じる戦争、でも80年前は現実の世界でした。若者よ、